

## 【地域教育実践報告】

## ディプロマポリシーに基づいた地域教育の試み

——近隣ベーカリーと連携した学外授業で「人間力」を育てる——

三國信夫\*

キーワード：ディプロマポリシー、人間力、社会人基礎力、デザイン

## 1. はじめに

本稿は、短期大学の後期科目「地域連携Ⅱ」における、地域と連携した教育活動を報告するものである。

特に、本稿では、短期大学のディプロマポリシーにある「人間力」が、「地域連携Ⅱ」という授業を通してどのように養われるのか（あるいは結果として養われたのか）について、記述を進めたいと考えている。大学（短大）と地域の連携にはさまざまな側面での効果・成果が期待されるが、そうしたなかでも学生にとっての学習効果を考えたときには、ディプロマポリシーとの関係がやはり最も重要であるといえるからである。

「調べる」「話し合う」「デザインする」「発表する」という過程を後期15回の授業で少なくとも2回繰り返す中で、「考える力」「前に踏み出す力」「協力する力」によって構成される「人間力」がどのように醸成されるのか。大学近くのベーカリー<sup>1</sup>との連携授業の教育成果について、受講生の振り返りも参考にしながら考察を進めたい。

## 2. 2021年度「地域連携Ⅱ」の授業概要

## 2.1 どのような学生が受講したか

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の流行に翻弄された1年であった。オンラインやハイブリッド型の授業での対応が迫られることがある中で、グループワークだけでなくキャンパスの外に出て活動することもある「地域連携Ⅱ」がオンラインという形式で従来の内容を実現可能かどうか危惧されたが、第1回の授業を除き、14回の授業をすべて教室での対面授業で実施できたことは幸運であった。

2021年度「地域連携Ⅱ」の受講登録者数は、33名であった。受講生の内訳は、表2.1のとおりである。男女がほぼ同数（男子学生16名、女子学

	日本人学生		留学生		合計
	男子	女子	男子	女子	
1年生	9	12	0	0	21
2年生	5	4	2	1	12
合計	14	16	2	1	33

表2.1 2021年度「地域連携Ⅱ」受講生内訳

\* 城西短期大学准教授

1 ベーカリー「サン・シーロ」：埼玉県入間郡毛呂山町下川原220-1

生17名)であり、学年の偏りもないことからわかるように、受講生間にもともと友人関係のない(知り合いがない)状態で授業に参加した学生が最も多かった<sup>2)</sup>。

また、「なぜ『地域連携Ⅱ』を受講しようと思ったのですか?」という質問には、「楽しそうだったから」「面白いと思います」という種類の回答が一番多く、授業内容については何となく知っている程度(近くのパン屋さんと何か一緒にする)が多かった。

一方で、「授業に対して望むことや、授業に対しての意気込みなどについて書いてください」という質問には、グループ活動へ積極的に参加したいという表明が多く見られた。グループ活動を苦手とする受講生も、この授業をきっかけに「協力する力」を積極的に身に付けたいという声もあった。

表2.2 なぜ「地域連携Ⅱ」を受講しようと思ったのですか?

コマが余ったから
三國先生だから
楽しそうだったから
単位を取るため
楽しそう
楽しそうだったから。
楽しそうだから。
楽しそうだったため
村越先生から聴いてもらい、話を聞いて私も興味をもったからです。
このコースはとても面白いと思いますから。
授業を探していたら見つけて、気になったので受講しようと思いました!
後期も科目の追加できることになり、周りから聞いて楽しそうだと思い受講しました。
留学するためにできるだけ単位を取りたかったため。
楽しそうだったからです。
自分で商品を考えたりすることに興味を持ったからです。
三國先生の授業だから。
地域について知りたかったからです
友達の話聞いて興味を持ったから
パン屋さんに行くって行っ授業が楽しそうだったから。
興味が少しあったから
三國先生の授業が楽しそうだったからです。
ゼミの先生のすすめられて
前期も地域連携をとっていたので後期も受講しようと思いました。
昨年の活動を聞いて、面白そうだと思ったから
グループワークを通してビジネスについて学べるため
面白いと思います
パン作りなどアクティビティな事がたくさんあるから楽しそうだなと思いました。
他にも、いろいろな人とコミュニケーションを取れる良い機会だと思ったからです!
よろしくお願ひします。
空いていたからです!
パン作りなどが気になった!
三國先生の授業だから。
自分が学んでいないことをもっと学びたいです

表2.3 授業に対して望むことや、授業に対しての意気込みなどについて書いてください。

人見知りなところもあるが頑張ろうと思う。
たくさん人と話します
グループワーク苦手だけど一生懸命頑張りたいと思います!
他人との関わりを沢山持ちたい
頑張ります
グループワークと人と話すことが苦手ですが、頑張りたいです。
グループワークを頑張りたいです。
グループワークで沢山話したいです
楽しくみんなと協力して授業に取り組みみたいです
特にない
チームワークがあると聞いたので、チームワークを頑張って授業に取り組みみたいです
パンのデザイン?作り頑張りたいです
パンと言えばシナモンロールですよね!
楽しんで頑張りたいです!
グループワークを上手く出来るか不安だけど頑張りたいです!
頑張ります。
がんばります
基本的にグループワークということなので、みんなと協力して積極的に頑張りたいと思います。
皆で楽しく授業ができればいいなと思っています、よろしくお願ひします
グループでしっかり話し合っって色々なことを学んでいきたいと思っています
みんな楽しくコミュニケーションを積極的に取り組んで行きたいと思っています。
自分何が出来るか分からないけど全力頑張りたいです
よろしくお願ひします。
積極的にグループワークに参加して、みんなと楽しく活動できる授業にしていきたいです。
グループ内で自分の意見をはっきりと言えるようにしたいです。
なし
自分の、考えを持てるように頑張る!
頑張れたらいいなと思います!
分からないから不安ですがお願ひします!
もっと勉強したいです

## 2.2 どのような授業が行われたか

### 2.2.1 授業の導入

第1回の授業は、オンライン方式(Zoom)で実施された。感染状況が第5波のピークを過ぎたもののまだ一日あたりの感染者数が東京都で200人を超えていたことから、対面方式ではなくオンライン方式とした。

本来であれば教室において簡単なガイダンスを実施した後、受講生同士の交流を目的としたアクティビティを予定していたが、Zoomにおいては授業方針を始めとするガイダンスにとどめ、アクティビ

2 このことから、特に「協力する力」を身に付けるためには、アイスブレイク・アクティビティを授業時間で多く取り入れて受講生がまずは心理的安全性を確保できるように工夫した。

ティの代わりに昨年度の授業風景を動画にした資料を視聴した。

受講生には、キャンパス近隣にあるベーカリー「サン・シーロ」と提携し、最終的にはパンのデザインとポスターの制作を目指すことを伝えた。また、グループワークが授業の中心になることも伝えた。

回数	内容・目的	形態
第1回(9/30)	ガイダンス	Zoom
第2回(10/7)	ベーカリー事業についての調査①	グループ
第3回(10/14)	ベーカリー事業についての調査②	グループ
第4回(10/21)	ベーカリー事業についての発表	グループ
第5回(10/28)	アンケート調査の方法解説	個人
第6回(11/4)	アンケート作成とテスト実施、サン・シーロへの質問準備	グループ
第7回(11/11)	サン・シーロ見学	グループ
第8回(11/18)	パンのデザイン①【回答型】	グループ
第9回(11/25)	パンのデザイン②、発表	グループ
第10回(12/2)	新しいパンのコンセプトを考える【提案型】	グループ
第11回(12/9)	コンセプトの発表と調査の準備	グループ
第12回(12/16)	調査結果の発表	グループ
第13回(12/23)	デザイン完成→サン・シーロに提出	グループ
第14回(1/13)	パンのポスター制作	個人
第15回(1/20)	ポスター発表	個人

表2.4 全15回の授業プラン

## 2.2.2 ベーカリー事業の調査と見学会

第2回、第3回、第4回の授業は、3-4人のグループで、ベーカリー事業について調査をし、発表をした。「サン・シーロ」での見学・質問会に向けて、そもそもベーカリー事業がどのくらいの規模のビジネスなのか、パンはどのくらい消費されているのか、その消費量に地域差はないのか、各グループ内でそれぞれの疑問を話し合いながら、Web情報だけでなく自宅周辺のベーカリーで訪問調査・観察をするなどした。調査結果をグループでまとめ、第4回の授業で発表をした。



図2.1 ベーカリー事業についてのグループ発表

第5回、第6回の授業は、Microsoft Forms を活用したアンケートの作成方法、グループメンバーとの共有方法、結果分析方法を学んだ。グループで実際にアンケートを作成し、他のグループに依頼してお互い回答しあって運用できるかどうかを確かめた。これらの作業は、実際にパンのデザインに取り組む際に、デザインの参考資料としてアンケート調査を予定していたことから、その際にアンケ



図2.2 「サン・シーロ」見学会の様子

ートを実施できるように事前に学習したのである。また、第7回の授業で「サン・シーロ」で見学することを予定していたため、特に第6回の授業でアンケートのトライアルと同時に「サン・シーロ」の見学の際に質問したいことをチームごとにまとめておく作業も行なった。

そして第7回の授業では、授業開始時刻に教室に集合した後、受講生全員が徒歩で「サン・シーロ」に向かい、店内を見学した上で、質問しつつ地域でのベー

カー事業について学んだ。見学会では、準備してきた質問以上の質問が学生から出されていた。

### 2.2.3 リクエスト回答型デザインの取り組み

第8回、第9回の授業は、「サン・シーロ」を訪れた際、お店側から与えられた「課題（リクエスト）」の「回答」が授業のテーマになった。授業では、この課題を【①リクエスト回答型】のパンのデザインと呼んだ。具体的には、お店側から、「塩パンをベースにした、冬の食材を活かした惣菜パンをデザインしてほしい」という課題をもらったことから、このリクエストに対して各グループがデザインの回答を考えることがこの2回の授業の目標であった。

各グループは、冬の食材を調べることから始めた。特に、埼玉県内で特産となっている食材を中心に調査するグループが多くみられた。第8回の授業では、まずは思いつく食材をなるべく多く書き出し、第9

回の授業では食材の価格や惣菜パンへの向き不向きなどを検討する中で食材を絞り、さらに新しい惣菜パンのイメージを紙に書き出し、発表の準備をした。

この過程で実際に商品化されたのが、3グループから生まれた3種類の惣菜パンであった。

第1弾は、グループのアイデア「ほっこりビーフシチューパン」が商品名「塩パンビーフシチュ

#### 地域連携Ⅱ 授業のながれ (①リクエスト回答型)

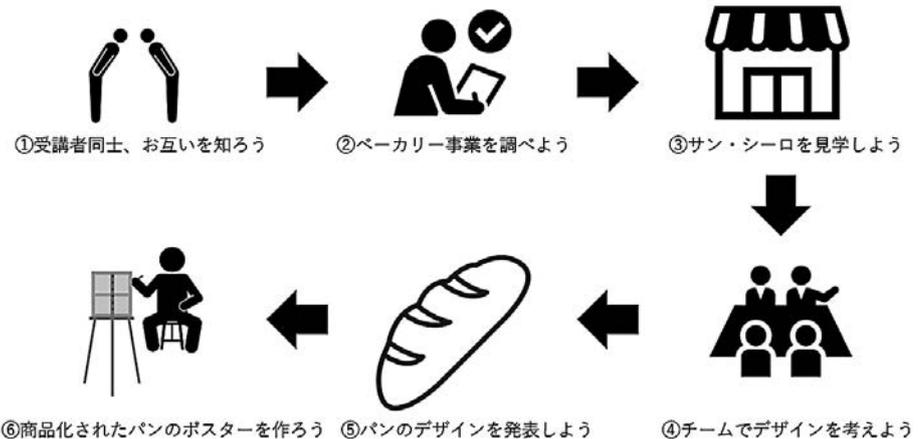


図2.3 教室で掲示した資料（リクエスト回答型）



図2.4 教室でのグループワークの様子

ー」として発売された。サイコロ大の牛肉とブロッコリーやポテトが具材となって、シチューでコーティングされた惣菜パンであった。

第2弾は、グループのアイデア「チーズグラタンパン」が商品名「シーフードグラタンパン」として発売された。パンが「たっぷりのチーズ」に包まれているというグループの基本コンセプトが再現された、熱々の惣菜パンであった。



図2.5 受講生のアイデア図と商品化されたパン  
 左上：塩パンビーフシチュー、右上：シーフードグラタンパン、下：クリスマスマリトッツォ

第3弾は、グループのアイデア「クリスマスマリトッツォ」が商品名もそのままに発売された。たっぷりのホワイトクリームの中に大粒のイチゴが3つ並んでいるところまで、学生のデザインを忠実に再現してもらった。クリスマスツリーを表現した飾りも、再現してもらえた。

## 2.2.4 自主的提案型デザインの取り組み

第10回、第11回、第12回、第13回の授業は、2回目のパンのデザインに取り組んだ。第8回、第9回の授業で実施した【①リクエスト回答型】のパンのデザインとの対比で、第10回以降のパンのデザインは【②自主的提案型】とよぶようにした。前者が、「サン・シーロ」からのデザインに関するリクエスト（塩パンベースで季節の食材を活かした惣菜パン）に応える（回答する）デザインであったのに対して、後者は、学生側からパンの基本コンセプトを提案し、そのコンセプトに沿って新しいパンをデザインしようとするものであった。

各グループは、「誰が」「いつ、どのような状況で」食べるパンを提案したいかについて話し合いをした。テーマを決める過程で、自宅学習も含めて、インターネットで食に関する問題を調べたり、

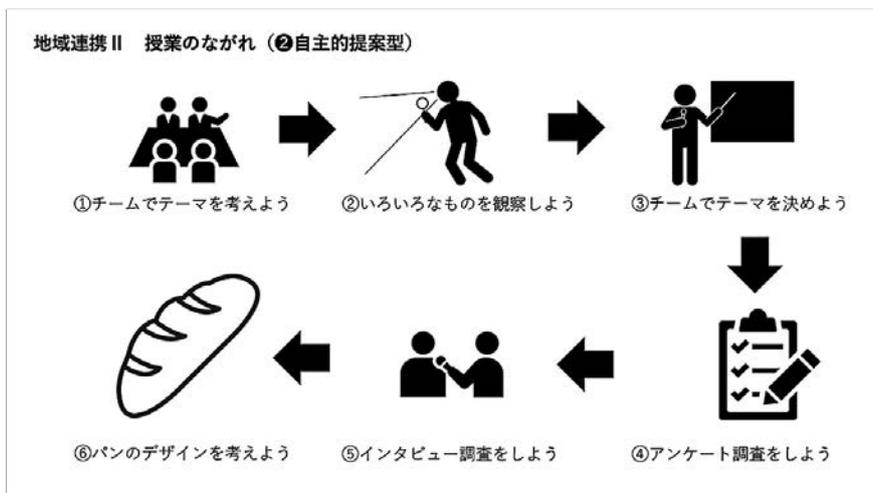


図2.5 教室で掲示した資料 (自主的提案型)

「パンを食べる」という行為を観察したりすることで、どのようなパンを作り出せば「売れる」「喜ばれる」のかを考えた。グループでまとまったテーマは全員の前で発表し、その際に他のグループから出た質問を機にさらにテーマのブラッシュアップを行なった。

次に、テーマに沿ってパン

のデザインをするにあたり、そのパンを食べてもらうターゲット層を中心にインタビュー調査またはアンケート調査を実施した。インターネット上の情報を拾い集めるだけでなく、自らが対象者にアクセスして「一次情報」を収集することの大切さを伝えてから、各グループで実施した。アンケート調査は、Microsoft Forms で作成したアンケートを活用し、グループ外の受講生や受講生以外の友人・知人らに協力を得ながら、1週間かけて実施した。

	誰が食べる	いつ食べる	どんなパン	調査方法	調査対象
A	小さい子	おやつ時	甘くて可愛い	保護者へのアンケート	27人回答
B	高校生・大学生	体力を使った後	体力補給や疲労回復	学生へのアンケート	32人回答
C	10代20代の若い女性	仕事など疲れた時	お腹にもたまるスイーツ	若い女性へのインタビュー	12人面談
D	中国人留学生	故郷を思い出した時	ボリューム感ある旨辛	中国人留学生へのアンケート	23人回答
E	シニア世代	おやつ時	味が濃くて柔らかい	シニア世代へのインタビュー	5人面談
F	高齢者	昼間	小さい一口サイズ	高齢者へのアンケート	25人回答
G	60歳以上	お茶のお供	柔らかい蒸しパン	シニア世代へのインタビュー	4人面談
H	40歳以上のお父さん	週末の夜	お酒のつまみになる	お父さん世代へのアンケート	7人回答
I	女子学生	小腹が空いた時に	一口サイズのラスク	城西女子学生へのアンケート	13人回答
J	運動部員	部活帰り	疲れを癒すパン	運動部学生へのインタビュー	7人面談

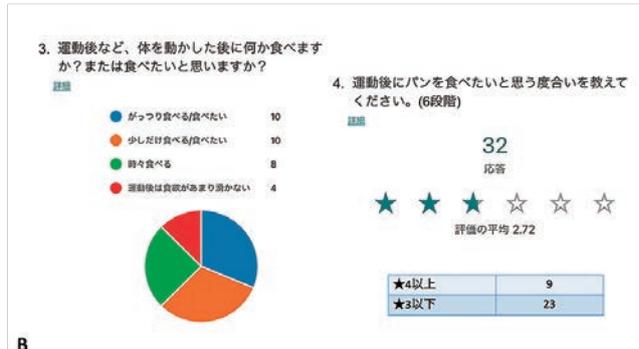
表2.5 グループごとのアイデアコンセプトと調査方法など

1週間後にアンケートやインタビューの結果を分析し、パンのデザインに取り掛かった。グループによってさまざまなコンセプトがあったため、調査結果が出たところでグループごとにプレゼンテーションを行い、クラス全体で情報共有した。また、プレゼンテーションの際には、それぞれの作品がより良くなるように、他のグループから質問や新たなアイデアを伝えてもらった。

この【②自主的提案型】のデザイン案からは、留学生をターゲットにした「ピリ辛チキン」が商品化され、発売された。



図2.6 グループコンセプトの発表の様子



**Bチーム：体力を使った後など、体力補給や疲労回復のパン**

ターゲット

- 学生(15～24歳)
- 運動部やスポーツする人向け
- 運動して疲れた時に
- 体力補給、疲労回復も見込める

⇒栄養のある『小麦胚芽パン』

- ミネラル豊富で疲労回復が見込める
- 老化予防も？！

※栄養価が高い胚芽を使ったパン

胚芽パンの中に具材を挟んだり上に乗せたり

**J(ジュワッと)U(うまい!)ロール (JUロール)**

具材  
ハム or ベーコン  
スライスチーズ  
目玉焼き

調理方法

- ①パン生地を薄く伸ばして円形に型をとる
- ②ハム(またはベーコン)、スライスチーズ、目玉焼きの順に上に重ねる
- ③ふわりになるように軽めにまるめていく
- ④チーズがとろけるくらいまで焼く
- ⑤ワックスペーパーなどで包んで完成!

図 2.7 「自主的提案型」デザインにおけるあるグループの活動資料

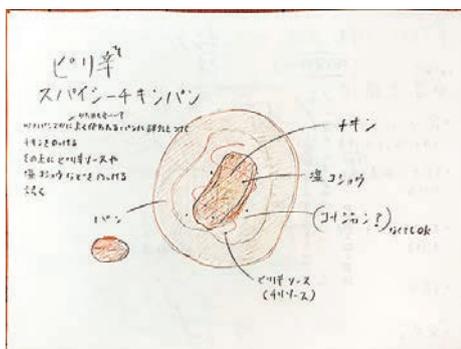


図 2.8 「自主的提案型」のデザイン案と商品化された「ピリ辛チキン」

### 2.2.5 2つのデザイン

ここで、「地域連携Ⅱ」の授業で実施された2つのデザインについて整理しておきたい。

昨年度までは、【①リクエスト回答型】のみで実施した。「サン・シーロ」から宿題をもらい、その回答を「サン・シーロ」に返すというワンパターンのみであった。

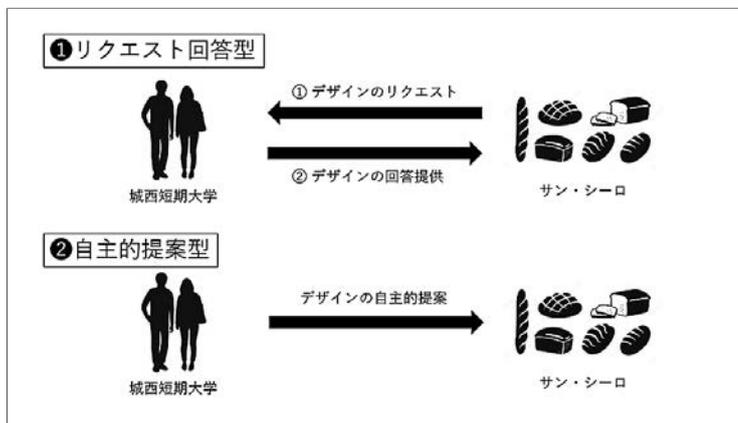


図 2.9 2つのデザインアプローチの対比

今年度では、【②自主的提案型】を初めて導入した。自分たちでコンセプトを考え、全く新しいアイデアを「サン・シーロ」に提案するスタイルである。これは、例年以上に「前に踏み出す力」「考える力」を育成するために、新たな試みとして導入した。来年度以降の授業においても、この【②自主的提案型】のデザインを取り入れて、受講生が「前に踏み出す力」「考える力」をよりよく身に付ける機会を提供していきたいと考えている。

## 2.2.6 商品ポスターの作成

第14回、第15回の授業は、商品化されたパンの「ポスター」を制作した。PowerPointでA3の形式で、授業を通して商品化された4種類のパン「ビーフシチューパン」「シーフードグラタンパン」「クリスマスマリトッツォ」「ピリ辛チキン」から一つを選び、「城西短大生が考案したこと」「商品情報（価格、名称）」「店舗情報（店名、場所、連絡先）」を含めることだけを条件に、自由に作成してもらった。

商品の写真だけでなく、手書きのイラストで描かれたデザイン図を掲載して「短大生がデザインした」という事実を強調しているポスターや、かわいいイラストをたくさん描き込んで子どもや若い人に興味を持ってもらおうとするポスターなど、学生の工夫が多く見られた。さらに、日本語で書かれたポスターだけでなく、それを英語に翻訳した「英語バージョン」に挑戦している学生もいた。

できあがったポスターは、選ばれた作品のみ「サン・シーロ」の店舗内や短期大学の構内に掲示されると伝えていたためか、全受講生から力作が出揃った。今後はこれらの作品から選ばれたものが、「サン・シーロ」の店内や短大棟の壁に掲示されていく予定である。



図2.9 受講生がデザインした新作パンのポスター①



図2.10 受講生がデザインした新作パンのポスター②  
中央：日本語バージョン、右：英語バージョン

### 3. 短期大学「ディプロマポリシー」と「地域連携Ⅱ」

#### 3.1 ディプロマポリシーにおける「人間力」

城西短期大学は、『学問による人間形成』の建学の精神のもと豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域社会に貢献できる人材を育成する」という理念のもとに、ディプロマポリシー（学位授与の方針）を掲げている。そして、短期大学全体及びビジネス総合学科の2つのディプロマポリシーに共通しているのが、「人間力」を育成することであり、この「人間力」は、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」の3つの力で構成されるとされる。

表3.1 城西短期大学全体のディプロマポリシー（学位授与の方針）

城西短期大学は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、社会の発展に貢献できる「人間力」をもった人材を育成します。本学は、以下の能力を修得し、学科の学位授与方針を満たした人に、短期大学士の学位を授与します。

- ① 広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力
- ② 社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力
- ③ 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力

表3.2 ビジネス総合学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）

ビジネス総合学科は、「自立した社会人として求められる人間力」を基本的学習成果と定めています。「人間力」とは、具体的には（1）前に踏み出す力、（2）考える力、（3）協力する力です。また本学科は、専門的学習成果を「職業人として活躍できる幅広い教養と、英語、情報、メディア、会計、販売・接客、事務処理等のビジネススキル」と定めています。ビジネス総合学科は、学科の所定の単位を修得した人が、以下の能力・態度を身につけていると判断し、短期大学士（ビジネス総合）の学位を授与します。

- ① 社会人として必要とされる基礎能力および態度
- ② ビジネスの世界で働くマインド（集中力、知的関心、積極性、自主性等）
- ③ 組織で働く協調性

毎年発行されている短期大学の受験生に向けたパンフレットの冒頭のページにおいても、「城西短期大学は『人間力』を育てます。」と教育目標を掲げており、そこには「Action（前に踏み出す力）」「Thinking（考える力）」「Team Work（協力する力）」という「人間力」を構成する3つの力が図示されている。オープンキャンパスなどでの受験生に向けた学校説明においても、この3つの力については必ず言及されている。



図3.1 2021年度パンフレットにある教育目標

### 3.2 「人間力」と社会人基礎力

短期大学の掲げる「人間力」を構成する「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」は、それぞれ2006年に経済産業省により提唱された「社会人基礎力」における「前に踏み出す力（Action）」「考え抜く力（Thinking）」「チームで働く力（Team Work）」に対応している。ここで社会人基礎力とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を指し、上記の「3つの能力」と「12の能力要素」で体系化されたものである。

短期大学においてディプロマポリシーに掲げられた「人間力」を育成することが、そのまま社会人として求められる能力を身に付けることになると言えよう。そこで大切になるのが、学生が実際に受講する授業において、具体的に3つの力を含む「人間力」がどのように育成されているか、ということである。筆者の担当する「地域連携Ⅱ」ももちろん例外ではない。

### 3.2 シラバスにおける「人間力」の目標

では、実際のシラバスを見てみよう。ここで、「地域連携Ⅱ」のシラバスにおいて「人間力」を構成する3つの力がどのように記されているのか、特に「学習成果」についての記述を確認したい。

表3.3 2021年度シラバス「地域連携Ⅱ（筆者担当）」における授業の目的・目標

<p>(1) 授業の概要 複合領域・基礎</p> <p>(2) 授業の目的 世界・日本・埼玉県観光事情を学ぶ。 大学周辺から、埼玉県内の範囲で、観光スポット<sup>3</sup>を見つけ、観察する。 その観光スポットについて、PRを考え、表現する。 グループワークで、協力して課題に取り組む。 フィールドワークを実施する。</p> <p>(3) 学習成果 地域の文化や特色に関心を持つようになる (②考える力)。 協力して課題に取り組む姿勢が身につく (③協力する力)。 フィールドワークで、コミュニケーション能力を鍛える (①前に踏み出す力)。</p> <p>(4) 授業の到達目標 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力 (ディプロマポリシーの③<sup>4</sup>)。</p>
--



図3.2 授業でたびたび掲示した「人間力」の図

シラバスで学習成果として期待されているのは、「地域の文化や特色に関心を持つようになる (②考える力)。」「協力して課題に取り組む姿勢が身につく (③協力する力)。」「フィールドワークで、コミュニケーション能力を鍛える (①前に踏み出す力)。」であった。

もっとも、シラバスで明記はしていても、それを日々の授業の中でどのように落とし込むかが肝要

3 当初は「観光スポット」としての学習対象を模索していたが、「サン・シーロ」の協力を得られることになったため、この「観光スポット」という表現は2022年度以降のシラバスでは修正を予定している。

4 短期大学全体のディプロマポリシーを指す。

である。筆者の授業では、上記の図3.2のピクトグラムを定期的にスライドで掲示して、受講生に身に付けるべき「人間力」を認識してもらうだけでなく、その時に授業で行われている活動や学びが3つの力のどの部分を育てることにつながっているのかを自覚してもらうようにした。

このようにすることで、学生は自身の「人間力」に自覚的になり、また、授業を通しての学びがディプロマポリシーにつながっていることを常に自覚できるようになると考えられる。逆に言えば、このように絶えず「人間力」などの教育目標を提示して受講生に自覚してもらっておかないと、15回の授業を終えた時に（あるいは短期大学卒業時に）自分がどれだけの「人間力」を身に付けたのかわからないままになってしまうことが危惧される<sup>5</sup>。

では、以下に、「人間力」を構成する「考える力」「前に踏み出す力」「協力する力」のそれぞれの力が、授業を通してどのように獲得されたのかを観察したい。

### 3.3 授業後のアンケートから見る「人間力」

15回の授業を終えた受講生に、授業後アンケートを実施した<sup>6</sup>。「地域連携Ⅱ」の授業を通して、「人間力」を構成する3つの力（前に踏み出す力・考える力・協力する力）が身に付いたかどうか<sup>7</sup>、また身に付いたとしたらそれぞれ具体的などのような力が付いたと思うのか、質問した。

表3.4は、「考える力」「前に踏み出す力」「協力する力」のそれぞれがこの授業を通して受講生自身の身に付いたか、という質問に対する回答の結果である。受講生自身の回答だけを見れば、3つの力それぞれにおいて「非常にそう思う」「そう思う」がほとんどであった。もちろん喜ばしい結果であることには間違いないが、しかし今後は、受講生の回答という主観的な指標以外に、受講生に3つの力の成長があったかどうか客観的に計測することも今後は必要になってくるであろう。さらに、「どちらでもない」「あまりそう思わない」という回答がある以上、授業内容についてさらに改善すべきことがあることを、筆者が認識しておくことは大事である。

	「前に踏み出す力」	「考える力」	「協力する力」
1	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
2	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
3	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
4	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
5	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
6	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
7	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
8	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
9	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
10	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
11	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
12	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
13	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
14	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
15	非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
16	そう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
17	そう思う	非常にそう思う	そう思う
18	そう思う	そう思う	そう思う
19	そう思う	そう思う	そう思う
20	そう思う	そう思う	そう思う
21	そう思う	そう思う	そう思う
22	そう思う	そう思う	そう思う
23	そう思う	そう思う	そう思う
24	そう思う	そう思う	そう思う
25	そう思う	そう思う	そう思う
26	そう思う	そう思う	そう思う
27	どちらでもない	そう思う	そう思う
28	あまりそう思わない	あまりそう思わない	あまりそう思わない

表3.4 3つの力が身に付いたかのアンケート

5 自分の「人間力」について自覚的である卒業生は稀であることが推測されるが、本来であれば入学時や卒業時にアンケートで調査し、授業の改善につなげておくべき事柄なのであろう。今後の検討課題である。

6 Microsoft Formsを利用して2021年1月20日(木)最終授業時に実施し、28人が回答した。

7 「非常にそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の選択肢があった。

この授業を通して、どのような「前に踏み出す力」が身に付きましたか？具体的に説明してください。

発言する力

自分からインタビューしに行くことなど

次のことへと前に踏み出す力が身に付きました。

前に踏み出す場面がなかったです。

少しでも思いついたら意見を言うことです。

初対面の人と話すことでコミュニケーション能力が付き協力的になれることが前に踏み出す力が身についたなと思いました。

しっかりと自分を意見を言うこと

元々、発表する事が苦手だったんですがこの授業を通して人の前に立つ事にも慣れてきた

発表の時自らやった

今までは流されるように意見を合わせることもあったけど意見を伝えるようになりました。

発表などで恥ずかしがらずに自分の意見を伝えた

新しいパンを考える事。

今までになかったパンを考えるということができ前に踏み出すことが出来た

アンケートをゼミの生徒達にも回したり、グループ内で自分の意見を言えるようになった気がします。

積極的に意見が思いついたら発言することで、前に踏み出す力が身につきました。

チームのパワー

日本語が上達する

動かなきゃアンケート取れないし、集まらないからこそ動くことができた

日本人とチームを組んで交流する

あまり話したことない人と話すときに話すことができた

案を出したり前に出て説明したこと

自分が思っていることを言えるようになりました。

パンのデザインなどを考えるとき、自ら調査したり、自分の意見をしっかりとみんなに伝えることができました。

自分の意見を言う

新しいプレゼンの仕方

グループワークが苦手でしたが、話しかけられるように前に踏み出す力が身につきました。

。

グループワークをする際に面識のない人達との話し合いだったので、自分から声を出して話し合いを始められたので、このときに少しですが前に踏み出す力が身に付いたと思いました。

表3.5 「前に踏み出す力」が身に付いたかのアンケート

### 3.4 「前に踏み出す力」は身に付いたのか

では次に、3つの力を個別に見ていきたい。まず、「前に踏み出す力」について、受講生が考えたものとしては、抜粋・要約すると以下のものが挙げられている。

- ・プレゼンテーションを行うこと
- ・初対面の人とのコミュニケーション
- ・チーム内で発言すること
- ・自分の意見を言うこと
- ・アンケートの協力を求めること
- ・(留学生が)日本人と話すこと

「プレゼンテーション」に関しては、2タイプのデザインについて、グループのアイデアをそれぞれの機会に発表してもらった際、必ずグループの1人に任せるのではなく全員が発表をすることを条件としていたため、受講生は「地域連携Ⅱ」の授業において少なくとも2回はプレゼンテーションを行っていたことになる。また、全15回の授業のうち11回の授業でグループワークを行ない、しかも2回グループ替えを実施したため、その都度、面識のないメンバーと活動する経験をした。アイデア出しや調査、テーマやデザインを決める際には、どうしてもメンバーとコミュニケーションをとるしかなく、「前に踏み出す力」を要求される環境にあったと言える。留学生にとっても日本人学生と共同作業をする授業が少なかったことから、貴重な経験となったようである。

もっとも、「前に踏み出す場面がなかったです。」という否定的な意見もあることから、来年度以降では学生にとってより多くの「前に踏み出す力」を鍛える場面を提供していく必要がある。

この授業を通して、どのような「考える力」が身に付きましたか？具体的に説明してください。
<b>需要と供給</b>
どんなパンを作るか考える力
商品を考える力が身に付きました。
思ってた授業と違いました。
パンについてたくさん考えました。
自分たちでパンのアイデアを考えて話し合ったりすることで色々な視点から考えられるようになった。
チームで協力して意見を出し合うこと。
自分が知らないことは積極的に調べて深掘りするようになった
<b>パンのアイデアを考えた</b>
一人で考えることなら受ける前でも身につけていたが考えたことをグループの人にわかりやすく伝えなくてはいけなかったので言葉で伝える力が身につきました。
<b>意見交換などでの違う観点での考える力</b>
パンを作る事を通して世間の人にどの様なパンが求められているのか考えることができた。
<b>パンを考案する上で様々な案を考えることが出来た</b>
対象の立場になって、どんなものを好むか、どんな見た目に目を引かれるか。などです。
<b>パンをデザインする時は、好きな人が偏らないような美味しそうパンをイメージすることを頑張りました。また、イラストを書く時は、なるべく実物に近く、美味しそうに書くことで選んで貰えるように工夫し、努力しました。</b>
<b>面白い</b>
<b>イノベーション</b>
どのようなパンにすれば売れるのか、誰に好まれるのか、自分目線ではなくて客観として見ることで色々な考えや、アイデアが浮かべられた。
<b>パンを作るに想像力</b>
どうすれば良いものが作れるのか考える力がついた
<b>ニーズに合ったパンを考えること</b>
どうすれば良いものが作れるのかを考えました。
<b>パンの具材やデザイン、構成、アンケートの内容など、考えようとする力が身に付きました。</b>
<b>みんなでひとつの事を考える</b>
<b>新しいパンを生み出す</b>
ポスター制作は特にどういう風に制作すれば目をひけるのか考えた。
<b>どんなパンが今売れてるのかとか調べて</b>
<b>どんなパンなら買ってくれるかなとか考えた。</b>
サンシーロさんから出されたお題に沿ってパンを考えるときにどのようなパンがお題に沿っているかを考える力が身につきました。

表3.6 「考える力」が身に付いたかのアンケート

### 3.5 「考える力」は身に付いたのか

次に、「考える力」について、受講生が考えたものとしては、抜粋・要約すると、以下のものが挙げられている。

- ・どんなパンを作るか考える
- ・意見交換などでの違う観点での考える力
- ・対象と立場になって、どんなものを好むか、どんな見た目にひかれるか
- ・イラストを描く上での工夫
- ・自分で知らないことは積極的に調べて深掘りするようになった
- ・ポスター制作は特にどういう風に製作すれば目をひけるのか考えた
- ・サン・シーロからの課題を考える際にどのようなパンがお題に沿っているかを考える
- ・どうすれば良いものを作れるのかを考えた
- ・ニーズに合ったデザインを考える

【①リクエスト回答型】のデザインの際には、どのようなパンにすればリクエストに応えられるのかを考え、【②自主的提案型】のデザインの際には、どのようなパンにすれば売れるのか（買ってもらえるのか）を考える。授業内で2つの課題を提示したことから、それぞれの課題で異なった刺激を受け、「考える力」を鍛える機会がもてたことがうかがえた。

また、それぞれの課題においても、イラストを工夫したりポスターの見栄えに気をかけたり、全授業を通して製作課題が多かったことから、受講生の「考える力」への刺激は、授業期間を通して絶え間なくあったようである。

来年度以降も、この2つの課題（2つのデザイン）に取り組んでもらうことで、受講生の「考える力」をより刺激していきたいと考えている。

この授業を通して、どのような「協力する力」が身に付きましたか？具体的に説明してください。
相手と意見を共有する
あまり関わったことがない人とでもコミュニケーションを取る力
チームで協力する力が身に付きました。
チームワークの時に使う。
少しでも思いついたら意見をお互い言うことです。
5と以下同文
チームで協力して、課題をすぐ終わらせることができた。
初対面の人や、留学生の方でも分け隔てなくグループワークをする事ができた
班の人と協力してできた
グループで協力して発表などを頑張りました。
班での話し合いなどでの協力
班行動でパンを考えて、話し合う力。
パンの案をみんな、グループで考えることが出来た
意見を言い合い、そこから話し合いながらまとめて形にしました。
色々な性格、おなじ歳ではないひととグループになったので、大変なこともあったのですが、みんなで協力して達成することが出来ました。
みんなが共通の目的を持っている
日本語が上達する
グループワークの時にみんなの意見を出し合っという商品にするのかっていう話をできた。協力して絵を描いたり、アイデアを出していた。
日本人と一緒に先生の残した宿題を完成します。
みんなと色々なことを意見交換して、協力できた
一緒にアイデアや案を出し合ったりアンケートを作ったりイラストを描いたりしたこと
いい作品を作るために色々なアイデアを出し合っ、1つのものを作るために協力したので、身についたと思います。
チームで意見を出し合い、みんなで協力して作品を完成させることができました。
意見をひとつにまとめる
自分一人で取り組まず、メンバーに頼む、任せる
グループの人と話し合っているうちに協力しながらパンの案を考えた
アンケートとか協力した。
面識のない人達とでもグループワークするときに協力することで協力する力が身に付きました。

表3.7 「協力する力」が身に付いたかのアンケート

### 3.6 「協力する力」は身に付いたのか

さらに、「協力する力」について、受講生が考えたものとしては、抜粋・要約すると、以下のものが挙げられている。

- ・課題を終わらせるために、チームで協力する
- ・パンのデザイン案をみんなで考える
- ・一緒にアイデアを出しあったり、アンケートを作ったりする
- ・自分一人で取り組まず、メンバーに頼む、任せる
- ・意見を一つにまとめる

前述したようにグループワークを頻繁に実施したため、当初は戸惑いがあったものの授業後半ではグループでの活動には慣れていったようだ。新しくグループを作り直した際にも、アイスブレイキングなどの特別な活動をしなくても、初対面であってもメンバー同士で自然とコミュニケーションをとり始めていた。

一方で、グループでの課題に取り組んでいると、どうしても人任せになってしまうメンバーや逆に全部自分で抱え込んでしまうメンバーも一部で見られた。そうした点からは「自分一人で取り組まず、メンバーに頼む、任せる」と受講生の振り返りにあるのは、時に全部自分で抱え込んでしまうのではなく人に任せることも大切だということを学んだ（気付いた）受講生もいたということであり、「協力する力」への深い理解が見られたとも考えられよう。「協力する力」でも一定の成果が見られたと考えられる。

<b>この授業を通して、自分に起きた変化、学んだこと、メッセージがあれば書いてください！</b>
楽しく感じた
1年間お疲れ様でした！楽しかったです！
協力する力がすごく身に付きました。
友達と話す時間ができた。
楽しかったです。
色んな体験ができて楽しかったです。
ありがとうございました
この授業をやりたくてこの学校を選んだと言っても過言ではありません。とても楽しかったです！ありがとうございました！
ありがとうございました
グループの人とコミュニケーションをとること
コミュニケーション能力が向上したと思う
楽しい授業でした。ありがとうございました
今までに無い体験ができて大変楽しく授業に取り組むことができました！ありがとうございました
何となくで入れた授業でしたが、とても楽しかったです。半年(?)ありがとうございました
パンがもっとすきになりました！ありがとうございました！
この授業を通じてパン作りについて多くのことを学びました
グループでの交流、日本語の上達
すごく楽しかった！また取れるなら取りたいです！
日本語能力が向上した
年下の子とあまり話さないから、この機会に話すことができたので勉強にもなりました。
1年間ありがとうございました
初対面の人と話すのが少し苦手だったけど、初対面の人でも普通に話すことができるようになりました。
今まで関わりがなかった人や留学生などと関わることができ、チームで協力して目標達成しようとする事の楽しさ、達成した時の喜びを改めて実感できる授業でした。1年間ありがとうございました。
サン・シーロさんに行こう思いました！
サン・シーロへの遠足が小学校以来で楽しかったです。
グループワークへの苦手意識が減りました。
協力する力がつきました
少しではありますが、グループワークでの面識がない人達との話し合いができたので、積極的に接するということが成長できたと思います。

表3.8 授業全般に関するアンケート

## 4. おわりに

以上、授業の概要から学生のアンケートを見てきたなかで、受講生が3つの力からなる「人間力」を一定程度身に付けてこられたことが推察された。もっとも、今後は、学生自身の振り返りだけからでなく、先にも述べたように、客観的な指標<sup>8</sup>を通して教育成果について計測する必要もあるだろう。

なお、この「地域連携Ⅱ」は、教室外での活動にもつなげることができた。

一つ目は、水田美術館における「地域連携活動報告展」(2021年7月開催)への参加である。受講生が展示パネルの前で解説をする機会もいただいた。

二つ目は、経営学部石井龍太先生のゼミナールとのコラボレーションである。短大生デザインの「ローカルヒーローパン」が誕生した。

今後は、教室での授業を充実させた上で、教室外でのコラボレーション等の活動の広がりをさらに加速させていきたい。この授業を担当する筆者自身が、この授業を通して、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」を存分に発揮する姿勢を自らまず受講生に見せようとするのが、何より彼ら彼女らの心に届くメッセージにもなると考えるからである。

### 参考文献

- (1) 中野民夫 (2017) 『学び合う場のつくり方』 岩波書店.
- (2) 岩山恒貴 (2019) 『地域とゆるくつながろう!』 静岡新聞社

8 例えば、「社会人基礎力診断テスト」などの活用が挙げられる。